

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270102221		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム サニーライフ篠田		
所在地 (電話番号)	〒038-0011 青森県青森市篠田三丁目20番23号 (電話) 017-782-7051		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 7月 15日	評価確定日	平成 20年 8月 18日

【情報提供票より】(平成 20年 6月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000~冬期24,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(6月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安方クリニック、ミナトヤ歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>住宅街に囲まれており、立地の環境を有効に活用している。近隣の住人も協力的で地域でのホームの役割が確立され、地域との連携を絶えず意識し大切にしていることが伺える。散歩や買い物も本人の気持ちを押し量って利用者が安心して生活できる場所であるよう個別ケアの提供が行なわれている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価及び自己評価を実践することの意義を職員全員が十分に理解し、評価結果については、1週間以内に皆で改善策を話し合って改善に取り組んでいる。前回の評価での改善課題は前向きに会社・ホーム全体で対応されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>現状に留まらず、自己評価を有効に利用し目標の実現のために、試行錯誤しながらも全職員で積極的に次への課題に取り組んでいる姿勢が伺える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を行い、民生委員・町会長・婦人部・家族・包括支援センター・入居者を交え、報告や意見交換、アドバイスをもらい、市の担当者には必要時、相談や助言を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>近況報告(健康・生活・行事等)や金銭管理の報告を毎月家族へ行い、面会時には随時報告を行っている。3ヶ月に1回はホームの広報誌を発行し、日々の暮らしを報告している。全職員で家族が意見・苦情を表せるような関係作りに取り組んでおり、意見・苦情があった場合には迅速な対応と報告を行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会・婦人部等との交流を確立し、地域での敬老会・宵宮・草取り等の行事にも参加し、ホームでの行事にも近隣の方が多く参加している。町内会で認知症についての説明を行うなど、地域の認知症普及活動にも積極的に活動している。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で(家庭的)、その人らしい生活(自立)と地域との共存(地域)を大切にしたい理念を職員独自で作り上げ掲げ支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで理念を読み上げ、日々職員間で共有し理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会・婦人会等との交流を確立し、地域での敬老会・宵宮・草取り等の行事にも参加し、ホームでの行事にも近隣の方が多く参加している。町内会で認知症についての説明を行うなど、地域の認知症普及活動にも積極的に活動している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価及び自己評価を実践することの意義を職員全員が十分に理解し、評価結果については、1週間以内に皆で改善策を話し合っ改善に取り組んでいる。前は栄養バランスに関する意見があったが改善している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回具体的な議題を上げ運営推進会議を行い、民生委員・町会長・婦人部・家族・包括支援センター・入居者を交え、報告や意見交換、アドバイスももらい、サービスの向上に努めている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者には苦情・事故の発生時等、相談や助言をもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護制度や成年後見人制度について研修会を行っている。入居者が成年後見人を活用しており、全職員が十分に理解している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会があれば積極的に参加し、ホームでの勉強会で伝達研修を行い、職員間で理解を深めるよう努めている。また、入浴時等にボディーチェックを行い、傷や内出血等の有無に注意を払っている。言葉の虐待等にも注意している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は利用者・家族に十分な説明を行い、理解・納得できるよう対応している。随時の質問や疑問にも受け説明を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>近況報告(健康・生活・行事等)や金銭管理の報告を毎月家族へ行い、面会時には随時報告を行っている。面会もできるだけ来てもらえるよう伝えている。3ヶ月に1回はホームの広報誌を発行し、日々の暮らし職員の異動等を報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を2箇所に設置し、全職員で家族が意見・苦情を表せるような関係作りに取り組んでいる。意見・苦情があった場合には事前に決めておいた担当職員を中心に迅速な対応と報告を行っている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は離職を最小限に抑えるよう職員との意見交換を行ってきた、原則異動を行わないことを方針としている。異動や離職がやむを得ない場合は、事前に利用者・家族に報告し利用者へのダメージを最小限になるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後3ヶ月・6ヶ月で当ホーム独自の自己評価、年1回の自己評価を行い、職員のスキルに応じた外部研修への参加を促している。月1回は内部研修を行い、伝達研修等を行っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内にある他のグループホームと実習交流を行い、サービスの質の向上を目指している。青森の「認知症を考える会」に入会しており、更に他事業所との交流や質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族と相談しながら、安定した利用ができるよう、入居前の情報を得て家庭の延長として生活してもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の考え・行動を尊重し、共に生活をしていくという考えの下、食事の準備等お互い協力をしながら支えあう関係作りに努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>設立当初よりセンター方式を利用し、随時気付いたことなどを追加し、職員全体で情報を共有しており、利用者の思いや意向に沿った暮らしが出来るよう努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族からの思いや意見を聴き、スタッフが共に暮らしていて気づいた課題を反映した介護計画を作成している。作成に当たっては、担当者以外の職員からの情報収集を行っている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎にモニタリングを、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、状態が変化した場合は随時見直し・変更を行い、実情に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の意向に応じることが出来るような体制作りを努めている。</p>		<p>事業所としての多機能性を再確認し、地域で利用者と家族が安心して生活するうえで必要な多様なサービスをいかに提供するかを前向きに模索しながら支援できることを期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する病院を利用できるよう配慮している。協力病院との連携は良好で24時間連絡が取れ、月2回の往診や必要時は相談や助言も受け、適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設での看取りは可能で、入居時に終末期についての説明は行い、その後状態の変化時に応じ話し合っている。ホームでできること、できないことの話合いも行っている。その中で必要時は医師と家族との話し合いも設けている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として敬意をはらうことを忘れず、利用者に対する言葉使いやケアの手順など、利用者のプライバシーについては十分注意し、また職員はもちろんボランティアからも同意書をとっており、個人情報の取り扱いには厳重にしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭生活の継続性を重視し、相手の立場に立ったケア、利用者の希望を取り入れ一人ひとりのペースにあった作業・外出等の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や後片付けなど出来ることは共に行い、職員も一緒に同じ食事を食べている。週1回は利用者のお好みメニューを設け、食事が楽しめるよう支援している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は設けず利用者が入りたい時に入れるように対応している。入浴があまり好きではない利用者には声かけ等を行い入浴介助を支援している。現在は身体的に入浴が困難な方への対応を前向きに検討している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>センター方式を活用し、一層生き生きとした表情を引き出せるよう、その人に合った生活の役割を持ってもらい、ハリや喜びを持ち過ごせるよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の気分や希望に応じて、心身の活性に繋がるよう日常的に散歩・日光浴・買い物などの外出の機会を設けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は身体拘束についての研修を受け、職員一丸となり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。折に触れ身体拘束が利用者にも与える影響、ダメージなどについても、勉強会を通じて学ぶ機会を設けている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は研修や勉強会等で鍵をかけることでの弊害を理解しており施錠は特にしていないが、玄関は防犯上の理由で夜間の施錠を行い、居室は利用者の希望により施錠を認めているが、必要時は開錠できるようになっている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回ホームでの避難訓練を行っている。回覧板などで事前に町内に連絡し、避難場所と消火活動への協力を依頼している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスを考えた献立を作り、食事・水分摂取量を把握している。本人の状態に合わせて摂取量の調整を行っている。年2回栄養士による見直し・相談を行いアドバイスももらっている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染予防には担当職員を選出しその職員を中心に感染等流行時期に合わせて勉強会を行なうなど、予防策を学び実践している。また流行時期に市から通知される文書なども参考にマニュアル作成も行なって対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者に自分の家だと思ってもらえるよう、生活感・季節感を採り入れ飾り付けに工夫をしている。起床後など居室の換気を行い気温・湿度も常時確認し、快適な環境を維持するよう調整をし配慮している。また職員と利用者が一緒に作成した作品などを展示し共用の空間を作っている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室への馴染みの家具・身の回りの品物を生活スタイルに合わせて用意されている。家族の宿泊も可能で利用者・家族と相談をしながら、利用者の居心地の良さに配慮されている。</p>		

 は、重点項目。